

## 岩美町防災会議 議事録

開催日時：令和8年1月27日（火） 午後1時30分～2時40分

開催場所：岩美町役場3階 大会議室

出席者：岩美町長（会長） 長戸 清、その他の委員の出席は、**別紙**のとおり

【事務局】総務課長 澤 敬美、総務課 地域防災係長 鈴木 真史

### 1. 開会

2. 会長あいさつ 岩美町長 長戸 清

### 3. 議題

【岩美町防災計画の見直しについて】

○事務局が、資料に沿って説明

**（質疑・応答）**

発言者	内容
委員	様式第16表の消防防災へりの離発着陸場の場所が減ったのはなぜか。
事務局	該当となる施設管理者や周辺住民の意向をふまえ、離発着陸場として利用できない判断となった。
委員	気象情報で、時点修正が必要な個所あり、後程事務局へ伝達する。令和8年から開始する新たな気象情報についても、我々も周知を図っていきたい。
委員	機関名が名称変更となっているため、修正をお願いしたい。また大雪の対応となる事前伐採については、県からの支援を受けながら事業を進めているところであるが、実際に倒木被害が減少していることから、効果が現れているものと感じている。県においては、令和8年度までの支援を一区切りとして考えているようだが、市町村からの要望があれば継続についても検討するとのことなので、県に要望していただきたい。
委員	鳥取県東部については、医薬品など備蓄については平成30年の鳥取の保健所への移行に伴い、鳥取県東部地域については鳥取市保健所が対応することとなっているおり、実際の備蓄は鳥取市立病院で行われているため、その旨記載の修正をお願いしたい。 また、救護班の要請先についても、対応する機関の追加をお願いしたい。
委員	組織の見直しに伴い、名称が変更となっている箇所あり、修正をお願いしたい。
委員	事前伐採については、先ほどの意見と同様に進言したい。 家屋被害認定については、人の目視による調査だけではなく、効率化というよりは安全の観点からドローン等の新技術を活用した調査も可能であり、テクノロジーの活用も必要と感じている。 また、計画を実践していく力を培うためにも、我々はリスクアセスメントによる評価を行うことも可能なので、ご協力させていただきたい。
事務局	また、改めて確認させていただく。

委員	<p>計画上はこれでよいと思うが、計画を住民の中にどうやって落とし込むかが重要である。要配慮者が避難が必要な場合はどこへ行けばよいか、福祉避難所はいつ開設されるか、そこまでどうやって行くのか等の問題がある。</p> <p>また、能登半島地震の時の際には、消防隊が助けに来られなかったと聞いている。そうなったら自助・共助の取り組みが必要となる。ただ、それぞれの自治会で、どこまでできるか、非常時の実対応を実践する上での住民への落とし込みに次の段階としてどうやって展開していくのかが必要である。</p>
事務局	<p>要配慮者へ方々への支援については、要配慮者支援制度あり。自ら避難できない方を周りの方々が手助けし、避難を誘導する仕組みとなっており、行政と地区が一体となってその仕組みを醸成していく必要があると考えている。しかしながら、地区により温度差があるのも現状としてあるので、しっかりと制度を定着させるべく行政が取り組んでいかなければならないと考えている。福祉避難所の開設にあたってのマニュアルについては既に作成しているところであるが、マニュアルの周知が十分でなかったり、マニュアルに沿った対応等ができるかなどの不安もあるため、訓練などを通じて解消したい。</p>
会長	<p>町では自主防災組織に対し、地域の訓練実施を促す訓練奨励金を交付している、地域でも積極的に訓練に取り組んでいただきたい。また、新年度において防災備蓄グッズへの支援も現在検討しているところである。ご意見のとおり、計画だけでなく、いかに実践に移していくかが重要と考えている。そのためにも、大規模災害を想定した防災訓練を年一回実施しているほか、共助の仕組みの構築を目的として各地区の自主防災組織で避難訓練などを実施していただくこと、また訓練を通じて必要な資機材を整備する必要がある場合は町も支援を行うなど、対応できる力を住民の方々と行政で培っていくことが必要と考えおり、今後も住民の方々と一体となって取り組みを進めて参りたい。</p>
	<p>以降、質疑無し、終了。</p>